筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析

―J500-900「読む」の場合―

孟　熙　　小野　正樹

要　旨

留学生センターでは日本語補講コースにおける日本語教育のスタンダードの構築を進めるため、留学生の学習者にニーズ調査を行った。本稿はその中の「読む」クラスの履修を希望している学習者の回答を分析したものであり、レベル別と身分別から結果の分析を試みた。「読む」クラスを履修する目的を尋ねる質問１と「読む」クラスを履修する際の学習困難点を尋ねる質問２の回答について、それぞれ形態素分析を行った上で、カテゴリーを設定した。その結果、読むレベルが上がるにつれ、文法への重視度が下がることや、上級学習者は言語自体に関わる問題のみではなく、読解テクニックも意識している点は先行研究の指摘を保証し、短期留学生は大学の授業のみでなく、趣味・読書やテレビ、雑誌などより広い範囲で読む練習の重要性を意識しながら、日本語らしい表現や文化知識を獲得したい気持ちがあっても、文化背景の理解が困難であることがわかった。

【キーワード】ニーズ調査　読むクラス　レベル別　身分別

A Learner Needs Analysis for the Intermediate and Advanced "Reading" Classes (J500-900) at the International Student Center of the University of Tsukuba

MENG Xi, ONO Masaki

【Abstract】We conducted a learner needs analysis as part of our efforts to develop a set of standards for the Japanese language course at the International Student Center. In this article, we analyze, according to level and status, the responses we received from students planning to register for a "reading" class. The questions we asked are as follows : 1) Why will you attend the reading class ? 2) What do you find difficult in reading Japanese? Our findings suggest that, as learners rise to higher levels, they become less concerned with grammar. Furthermore, learners at the more advanced levels reported intentionally adopting reading strategies, a point which supports findings in previous research. Additionally, even when there was a desire to gain typical Japanese expressions and cultural knowledge, short-term students reportedly found it difficult to understand the background of the expressions.

【Keywords】Needs analysis, Reading class, Japanese level, Standards

１．概要

2010年12月に筑波大学留学生センターにおいて実施したニーズ調査について、J500からJ900の「読む」のニーズを分析した結果を報告する。

１．調査概要

2．1　被調査者のレベル別比率

今回実施したニーズ調査において、「読む」技能の質問を回答してくれた学習者は180人であった。（「読む」について何も記入していない45人を除く）まず、この180人の「読む」技能のレベルを見てみる。

「読む」技能の質問を回答した180人の中では、「読む」レベルはJ500の学生が32人であり、全人数の18％を占めている。J600の学生は47人であり、全人数の26％を占めている。J700とJ800の学生はそれぞれ29人おり、16％を占めている。J900の学生は16人であり、全人数の９％を占めている。また、レベルの欄に記入しておらず、空白の学生は27人であり、15％を占めている。図で表示すると、以下のようになる。

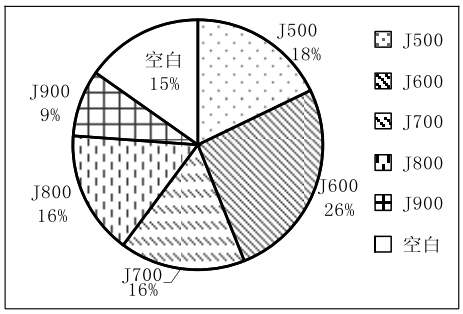

図１　「読む」レベル別の比率図

2．2　キーワード抽出

ニーズ調査の回答には日本語を用いた回答もあるが、中国語や韓国語、英語での回答が多かったため、諸言語を日本語に統一した。それから、異なる言語の間にニュアンスなどのずれが生じないように母語も参照しながら、集計・分析に入った。

大量の回答を直接分析するのは漠然としすぎるため、質的な分析を行う際に重要だと思われる情報をまずピックアップしてまとめなければならなかった。その重要な情報をピックアップする方法として、すべての「読む」に対する回答からキーワードを抽出し、統計し、キーワード一覧表の作成を試みた。具体的な方法は、形態素解析のサイト（http://seo.design.io/keyword_chk）を利用し、「読む」に対する回答のキーワードの使用頻度を降順に整理し、さらにゴミを排除し、表にまとめた。

そしてまとめたキーワードを参考にし、具体的なカテゴリーの設定作業を行った。

2．3　カテゴリーの設定

「読む」クラスの質問は以下の二つである。

① あなたは今、どんな場面で、何をするために「読む」練習をする必要がありますか。

必要性の高いものをできるだけ具体的に書いてください。

② 質問１の場面で読む時に難しいと思うことは何ですか？できるだけ具体的に書いてください。

質問１では、語彙の出現頻度を統計すると、「文献」「書籍」「論文」「メール」「説明書」など各種の題材に関する語彙が非常に多数現れており、これらの各種の題材を一つにまとめて見ると、もっとも出現頻度が高かったことが分かる。これらの各種の題材を観察すると、大学の学習と関わる題材もあれば、日常生活に現れる題材もある。また、題材の次は「読む」、「閲覧」、「朗読」など各種の題材を「読む」動詞であり、さらに、「研究」「勉強」「日常生活」などの語彙も頻出した。これに基づき、質問１では、まず数多くの題材を「題材を読む」という大きなカテゴリーを設定した。さらにそのサブカテゴリーとして、題材を読む目的を判断基準とし、「文献、資料など学業勉強で読む題材」、「ニュース、テレビ（字幕）、新聞、雑誌などの題材」、「小説、文学、マンガなど趣味の題材」、「メール、インターネット、案内書、説明書など日常生活上の題材」の四つに分けた。

各種の題材に関係する語彙のほかに、「読んで理解する」、「能力」、「技術」、「強める」、「増やす」などの語彙も数多く現れた。このことから、学習者は「読む」クラスを履修する際は、履修する目的として、各種の題材を読むだけではなく、ある程度はっきりした達成目標も意識していると言えるだろう。これに基づき、「能力アップ」という大きなカテゴリーも設定した。さらに、具体的な回答を分析し、読むスキルに関する「迅速に大意把握」「文章理解力」「文法理解・応用能力」「語彙の量・理解」、及び「読む」以外の他技術の能力アップに関する「作文能力のアップ」「日本語の記憶力のアップ」「語彙意味の推測」、「話す能力のアップ」「ヒアリング能力のアップ」というサブカテゴリーに分けた。「話す能力のアップ」と「ヒアリング能力のアップ」の二つのサブカテゴリーについては一見「読む」とは関わりがなさそうであるが、具体的な回答を見ると、「読むは話すの基礎」「話すのがあんまりうまくないのは朗読能力が弱いからだと思う」という回答から、回答者はここの「読む」を「音読」と理解して答えたと考えられる。

各種の題材と履修目的でもある能力の向上希望以外に、「情報を得る」と「日本文化背景、日本社会を理解」という答えもあったが、「その他」というカテゴリーを設定した。

具体的なカテゴリー構成は表１を参照されたい。

表１a　質問１の回答分析におけるカテゴリー

題材を読む			
アカデミック関係	媒体による情報取得	趣味・読書	日常生活の題材

実際の回答を資料１に挙げたため、それを参照されたい（資料１の(1)-(6)）。

表１b　質問１の回答分析におけるカテゴリー

能力のアップ								
読むスキル					他技術			
大意把握	文章理解	文法の理解・応用能力	語彙の量・理解	未知語彙の推測	作文能力のアップ	日本語の記憶力のアップ	ヒアリング能力のアップ	話す能力のアップ

実際の回答は資料１の(7)-(14)を参照されたい。

表１c　質問１の回答分析におけるカテゴリー

その他	
知識の獲得	日本語らしい表現や日本文化

実際の回答は資料１の(15)-(16)を参照されたい。

質問２では、学習上の困難点について問うたため、「困難」、「分からない」、「混同する」、「誤り」などのことばがもっとも高い頻度で出現したのは当然であると考えられる。これらのことばの後について、出現頻度の高いのは、「語彙」、「外来語」、「新しい単語」、「古語」、「多義語」、「慣用」、「熟語」など語彙と関連することばである。さらに、その次は、「訓読み」、「音読み」、「読み方」、「アクセント」、「書面」、「口語」などのことばも現れた。すなわち、これらのことばの出現頻度を加算すると、語彙に関連することばは最も出現頻度が高かったことが分かる。語彙に関連するキーワードのほかに、「文法が難しい」など文法に関する回答も現れた。これらの回答は語彙の不足にしろ、文法の不足にしろ、すべて日本語自体に関わることであるため、「言語自体に関わること」という大きなカテゴリーを設定し、そのサブカテゴリーとして、まず「文法」と「語彙」に二分した。さらに、「語彙」の下に、細かく「未知語彙」、「漢字の読み方・発音・書き方」、「外来語・カタカナ」、「書き言葉・話し言葉」、「古語・専門用語・専門文献」、「慣用表現・コロケーション」、「多義語・類語」の項目を設定した。また具体的に語彙の何の面について述べているのかが不明である「キャラクターと語彙が難しい」という回答は、「語彙」というカテゴリーの下の「キャラクター」とした。

語彙と文法以外に、「把握」、「理解」などのことばも現れた。回答を読むと、「長文の時、理解できない」、「区切りが分からない」、「読むのが遅い」、「時間がかかる」などの表現が現れたため、それらをまず「読解テクニックの欠如」というカテゴリーを設定した。その

下の具体的な細かいカテゴリーは回答者の回答から出た学習困難点を参考に、「長文の理解・区切り」、「曖昧な文章の理解・ニュアンスの把握」、「文章の主旨・構成・作者の意図を理解、まとめ」、「時間がかかる」、「精読か速読か迷う」に分けた。「文化背景」、「縦書きになれない」などの答えも出たが、上の文法・語彙の問題とテクニックの問題に収めることができないため、その他とした。また、「政治と経済についての文章」という回答があったが、具体的にどのような学習難点を指しているのか不明なため、これも「その他」に入れた。

表 2a　質問 2 の回答分析におけるカテゴリー

言語自体に関わる問題								
文法・未習文法	未知語彙	漢字の読み方・書き方	外来語・カタカナ	話し言葉・書き言葉	古語・専門用語・専門文献	慣用表現・コロケーション	多義語・類語	キャラクター

実際の回答は資料 1 の(17)-(23)を参照されたい。

表 2b　質問 2 の回答分析におけるカテゴリー

読解テクニックの欠如				
長文の理解・区切り	複雑・曖昧な文章の理解・ニュアンスの把握	文章の主旨・構成・作者の意図の理解、要約	読むスピードが遅い	精読か速読か迷う

実際の回答は資料 1 の(24)-(28)を参照されたい。

表 2c　質問 2 の回答分析におけるカテゴリー

読解内容に関わるもの		
文化背景・知識	政治と経済についての文章	縦書きに慣れない

実際の回答は資料 1 の(29)-(31)を参照されたい。

表 2d　質問 2 の回答分析におけるカテゴリー

その他		
ストラテジーを勉強したい	日本語を勉強する時間がない	母語発音の干渉

実際の回答は資料 1 の(32)-(34)を参照されたい。

3．結果報告

全体にわたり、見えてきた特徴を言うと、質問 1 において「題材」の中で専門文献など学校での勉強に関わる題材がもっとも多かった。学習者が留学生センターで「読む」クラスを履修したい最も大きな目的はやはり大学の専門の学習であると言えよう。また、学習者は各種の題材を読んで理解するだけで満足するのでなく、ある程度はっきりとした「ど

のような能力を上達させたい」という具体的な目標も持っていることが分かる。「能力アップ」というカテゴリーでは、もっとも多いのは「大意把握」の20件であり、特に「迅速に」や「早いスピード」などの言葉がいつも現われている。さらに、この20件のそれぞれの質問２学習困難点に対する答えを見ると、15件は語彙についてであった。学習者にとって、「読む」とき、最も身につけたい能力は迅速に読んだ文章の大意をつかむことである。しかし、文章の大意を理解しようとする時、「語彙」の問題がそのもっとも大きな障害となっている。次に「語彙の量を増やす・理解」は13件であった。「「読む」は「話す」の基礎」４件、「ヒアリング能力」２件もあったが、「音読」と誤解して理解したと考えられる。

学習困難点について問う質問２においては、「語彙」と答えた人が最も多く、109件もあった。その中で「漢字の読み方・発音・書き方」が最も多く、52件であった。「文法」と答えた人は21件であり、予測よりずいぶん少ないことが分かる。すなわち、学習者は読む練習をする際、文法をそれほど意識しておらず、語彙の意味や読み方を意識していると言っても良いだろう。「読解のテクニック」では「文章の主旨・構成・作者の意図を理解、まとめ」がもっとも多く、16件であった。これも質問１の「大意把握」と関連していると考えられる。「複雑・曖昧な文章の理解・ニュアンスの把握」は10件であり、その次は「時間がかかる」の９件であった。

３．１　レベル別に見た結果

本ニーズ調査は留学生センターのJ500-J900のレベルで勉強している学習者を対象とした。その中で「読む」クラスで勉強している学習者の「読む」レベルはJ500、J600、J700、J800、J900の四つである。ニーズ調査の回答から傾向を見るために、ここではJ500、J600を一つの類、すなわち「中級前半」とし、J700、J800を「中級後半」とし、J900を「上級」と見て回答を分析する。各レベルを図で表示すると、図２になる。

図２に示したように、留学生センターで「読む」クラスを履修している学習者の中で、中級レベルが非常に高い比率を占めており、その中で中級前半の学習者が最も多いことが分かる。ここで、レベル別にニーズ調査の結果を統計すると、質問１は表３、質問２は表４のようになる。数字は答えた人数を表し、パーセンテージは各レベルの人数の中で占める比率を表す[1]。

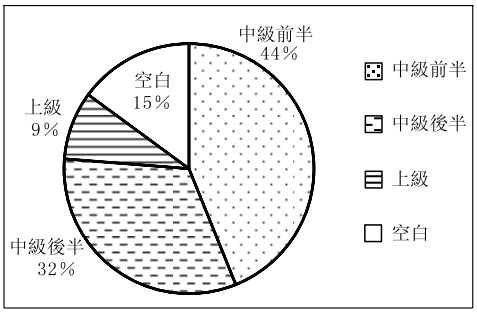

図２　各レベルの比率図

3.1.1　学習動機を問う質問１

表３a　レベル別に見た「題材を読む」カテゴリーにおける学習動機別回答

題材を読む				
読むレベル	アカデミック関係	媒体による情報の取得	趣味読書	日常生活題材
中級前半（79人）	45（57％）	19（24％）	12（15％）	5（ 6％）
中級後半（58人）	37（64％）	21（36％）	11（19％）	7（12％）
（中級全体137人）	*82（60％）*	*40（29％）*	*23（17％）*	*12（ 9％）*
上級（16人）	10（63％）	5（31％）	3（19％）	1（ 6％）
未記入（27人）	15（56％）	7（26％）	2（ 7％）	5（19％）

質問１を統計処理した表３aを見ると、「どんな場面で、何をするために「読む」練習をする必要があるか」という学習動機を尋ねる設問に対し、「読む」レベルに関わらず、いずれのレベルにおいても「題材を読むために」という答えが最も多かった。さらに、表３aを見ると、題材の中でいずれのレベルにおいても「アカデミック関係の題材を読む」という目的で授業に参加していることが分かる。中級前半の数字を見ると、アカデミックに関わる題材を読むために履修していると答えたのは57％である。新聞や雑誌、テレビなどの媒体による情報を取得する目的を持っている人は24％である。文学や漫画など趣味読書及び生活上の案内書や説明書を読む目的を持っている人はそれぞれ15％、６％しかなかった。それに対し、中級後半の学習者においても、アカデミックに関わる題材が最も高い比率ではあるが、一人の回答の中にアカデミック関係の題材だけでなく、同時にほかの題材を答えた人も少なくなかった。そのため、テレビや新聞などの題材、小説などの趣味読書及び生活上の題材のいずれも中級前半の学習者より比率が高かった。すなわち、中級後半になると、アカデミックだけでなく、趣味や生活などのほかの場面にも「読む」技能を運用したいと思っている。さらに、中級前半と中級後半を中級と統一し、上級レベルと対照しながら見てみると、生活上の題材においては中級レベルの学習者は上級レベルの学習者より高いが、それ以外の題材においてはいずれも上級レベルより比率が低いことが分かる。すなわち、読むレベルの向上につれ、学習者はアカデミックの題材のみ扱うのではなくなり、テレビや雑誌などの媒体による社会の情報取得やさらに小説や漫画など自分の趣味、より広い範囲で読むという技能を発揮し、「読む」技能の重要性を意識していると言えよう。これは先行研究にも指摘されている。西口（1990）では上級の学習者は読書の目的は情報を得る場合も楽しみに読む場合も、広範な話題の様々なテキストを扱うと述べている。一方、説明書や案内書を読むという日常生活上の題材においては、中級では12人もいるのに対し、上級では１人しかいなかった。これは読むレベルが上級となると、生活上では何か

を読む際、ほとんど困ることがなく、あまり意識していないためだろう。

表３b　レベル別に見た「能力のアップ」カテゴリーにおける回答

能力のアップ									
読むスキル						他技術			
読むレベル	大意把握	文章理解	文法の理解・応用能力	語彙の量・理解	未知語彙の推測	作文能力	日本語の記憶力	ヒアリング能力	話す能力
中級前半(79人)	12(15%)	9(11%)	6(8%)	8(10%)	1(1%)	3(4%)	1(1%)	1(1 %)	3(4%)
中級後半(58人)	6(10%)	5(9%)	0	3(5%)	0	0	0	1(2%)	0
(中級全137人)	*18(13.1%)*	*14(10%)*	*6(4%)*	*11(8%)*	*1(1%)*	*3(2%)*	*1(1%)*	*2(1.5%)*	*3(2%)*
上級(16人)	2(12.5%)	3(19%)	0	1(6%)	0	0	0	0	0
未記入(27人)	0	1(4%)	1(4%)	1(4%)	0	0	0	0	1(4%)

表３ｂの「能力アップ」というカテゴリーを見ると、中級前半の答えは分散していることが分かる。読むスキルをアップさせたいというサブカテゴリーの中で、「迅速に文章の大意を把握」という答えが最も多く、その次は文章の理解、語彙の量と理解、文法の理解と応用である。それに対し、中級後半の回答では、依然と「迅速に文章の大意を把握」が最も高い比率を占めており、その次は文章の理解、語彙の量と理解であるが、「文法の理解と応用能力」と答えた人はいなかった。質問１では学習動機を問うため、比率からみると読むレベルの向上につれ、文法学習への関心が前より薄くなるのかという疑問が現れる。さらに、中級前半と後半を一つにまとめ、上級の数字を見る。上級で最も高い比率を占めるのは大意把握ではなくなり、文章理解となっている。その次は大意把握と語彙の量と理解であり、文法の理解と応用と答えた人もいなかった。すなわち、読む能力が向上するにつれ、文法の勉強はそれほど重視されなくなり、精読をして文章を理解したいことが重視されるようになってくると言えよう。また、多技術をアップさせたいと答えた人はすべて中級レベルであり、上級レベルにはいなかった。これは中級、特に中級前半の学習者は「読む」を「音読」と誤解したためと考えられる。

表３c　レベル別に見た質問１の「その他」カテゴリーにおける回答

その他		
読むレベル	知識の獲得	日本語らしい表現や日本文化
中級前半（79人）	1（1　%）	1（1%）
中級後半（58人）	0	4（7%）
（中級全体137人）	*1（0.7%）*	*5（4%）*
上級（16人）	1（6　%）	0
未記入（27人）	1（4　%）	0

表３c「その他」では、最も目立つのは「日本らしい表現と日本文化」という項目である。表から見ると、これも中級学習者にとって気になる問題の一つであり、読む練習を通して身に付けたいものとなっている。

3.1.2　学習困難点を問う質問２

表４a　レベル別に見た質問２の「言語自体に関わる問題」カテゴリーにおける回答

言語自体に関わる問題									
読むレベル	文法・未習文法	未知語彙	漢字の読み方・書き方	外来語・カタカナ	話し言葉・書き言葉	古語・専門用語・専門文献	慣用表現・コロケーション	多義語・類語	キャラクター
中級前半（79人）	12（15%）	17（22%）	23（29%）	4（5%）	3（4%）	4（5　%）	6（8%）	2（3%）	0
中級後半（58人）	5（9%）	17（28%）	19（33%）	1（2%）	0	3（5.1%）	2（3%）	0	1（2　%）
（中級全体137人）	*17（12%）*	*34（25%）*	*42（31%）*	*5（4%）*	*3（2%）*	*7（5　%）*	*8（6%）*	*2（1%）*	*1（0.7%）*
上級（16人）	1（6%）	1（6%）	4（25%）	2（13%）	0	3（19　%）	1（6%）	1（6%）	0
未記入（27人）	3（11%）	4（15%）	6（22%）	3（11%）	1（4%）	0	1（4%）	0	0

表４aは言語自体に関わる学習困難点である。すべてのレベルにおいても語彙に関わるものが最も高い比率を占めている。特に、「漢字の読み方・書き方」はいずれのレベルにおいても最も高い比率を示している。これは山本（1985）で述べられているように、文章の中の漢字含有率が読解の難易度に影響を及ぼすということを証明している。また、中級前半を見ると、文法を難しいと思っている人も15%いた。中級後半では前半より文法の占める比率は下がっている。さらに、上級も一緒に見ると、やはり漢字は難しいが、未知語彙と文法の関係が一気に薄れたことが分かる。すなわち、読むレベルが上がると、語彙もある程度蓄積でき、特に文法を困難点と思う人も少なくなる。この点については、質問１の結果と一致していると思われる。

表４b　レベル別に見た質問２の「読解テクニックの欠如」カテゴリーにおける回答

読解テクニックの欠如					
読むレベル	長文の理解・区切り	複雑・曖昧な文章の理解・ニュアンスの把握	文章の主旨・構成・作者の意図を理解、まとめ	読むスピードが遅い	精読か速読か迷う
中級前半（79人）	4（ 5%）	2（ 3%）	9（11%）	0	0
中級後半（58人）	4（ 7%）	4（ 7%）	5（ 9%）	6（10%）	1（2　%）
（中級全体137人）	*8（ 6%）*	*6（ 4%）*	*14（10%）*	*6（ 4%）*	*1（0.7%）*
上級（16人）	2（13%）	2（13%）	2（13%）	2（13%）	0
未記入（27人）	1（ 4%）	2（ 7%）	0	1（ 4%）	0

表４bの「読解テクニックの欠如」というカテゴリーにおいて目立ったのは、上級レベルの高い比率である。最後の「精読か速読か迷う」という項目以外、すべての項目においても、中級前半・後半よりかなり高い比率を示している。この点については、表４aと関連をつけながら述べるが、中級前半にせよ、中級後半にせよ、中級の学習者は読解をする際、日本語の言語自体に関わる問題にすでに引っかかってしまい、読解テクニックまで考える余裕はなかったと考えられる。そのため、中級の学習者は語彙や文法など言語自体に関わる問題が難しいという回答が多かったが、一方で読解テクニックがないから難しいと答えた中級の学習者は少なかった。

表４c　レベル別に見た質問２の「読解内容に関わるもの」カテゴリーにおける回答

読解内容に関わるもの			
読むレベル	文化背景・知識	政治と経済の文章	縦書きに慣れない
中級前半（79人）	3（4%）	0	0
中級後半（58人）	1（2%）	1（2%）	1（2%）
上級（16人）	0	0	0
未記入（27人）	0	0	0

表４cは読解内容に関わるものである。上級においてはいずれの項目においても答えた人がいなかった。これに対し、中級では文化背景と知識が難しいと答えた人が４人であり、残りの項目では一人ずつであった。やはり上級の学習者は読解テクニックを重視し、読解内容そのものには中級の学習者ほど重要視していないと言えよう。

表４d　レベル別に見た質問２の「その他」カテゴリーにおける回答

その他			
読むレベル	ストラテジーを勉強したい	日本語を勉強する時間がない	母語発音の干渉
中級前半（79人）	1	0	0
中級後半（58人）	0	0	1
上級（16人）	0	0	0
未記入（27人）	0	1	1

表４dの項目は各カテゴリーに収まらないものである。これらの項目においても答えた上級の学習者はいなかった。「ストラテジーを勉強したい」と答えた学生の回答の原文は「授業で読む文献の量が限られているため、読解ストラテジーをマスターしたい」であった。さらに「母語発音の干渉」と答えた人は「読解」を「音読」と勘違いして理解した回答である。

3.1.3　本節のまとめ

本節ではレベル別にニーズ調査の結果を検討してみた。その結果、以下の点が見えてきた。

①学習動機を問う質問１において、

a.読むレベルが上がるにつれ、読む能力を運用したい場面も広がり、アカデミックに関わるもののみに集中するのではなく、自分の趣味などの場面にも読む能力の必要性を意識するようになる。

b.中級では文章の大意を把握するために読む練習の必要性を感じる人が多いのに対し、上級では文章を精読して理解するために練習の必要性を感じる人が最も多かった。

c.読むレベルが上がるにつれ、文法への重視度が下がる。

d.日本語らしい表現や文化知識も中級学習者にとって、読む練習を通して身につけたい知識である。

②学習難点を問う質問２において、

a.いずれのレベルにおいても、語彙に関わるものが最も比率が高かった。その中でも、また漢字の書き方・読み方が最も高い比率を占めている。

b.読むレベルが上がるにつれ、未知語彙が難しいと思う人が少なくなる。

c.読むレベルが上がるにつれ、文法が難しいと思う人も少なくなる。

d.上級学習者は言語自体に関わる問題のみではなく、読解テクニックも意識している。これに対し、中級学習者は読解テクニックはあまり意識せず、言語自体を困難点としている人がほとんどであった。これは中級の学習者は読解をする際、言語自体に関わ

る理解に引っかかってしまい、読解テクニックまで考える余裕はなかったためと考えられる。

e.読解内容などの項目においては、回答した上級学習者はいなかった。中級学習者にとって、文化背景なども学習難点である。

3.2　身分別に見た結果

この節では、身分により180名の学習者を「正規生」、「研究生」、「短期留学生」と身分により三分とし、ニーズ調査の結果を見る。正規生は大学院の40名と学部生の９名からなる49名であり、研究生は正式入学をする前の学生75名である。短期は特別聴講生や日本語・日本文化研修生など一年間の短期留学をしている学習者で44名である。また、身分欄に未記入の学習者は12名であった。この身分の構成を図３で示す。「読む」クラスを履修している学習者の中で、研究生が42％も占めており、最も多い。短期留学生も予想より多かった。

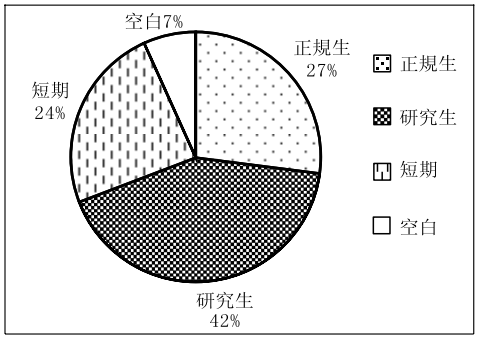

図３　身分別の比率図

3.2.1　学習動機を問う質問１

表５a　身分別に見た質問１の「題材を読む」カテゴリーにおける回答

題材を読む				
身分	アカデミック関係	媒体による情報の取得	趣味読書	日常生活題材
正規生（49人）	23（47％）	9（18％）	3（ 6％）	5（10％）
研究生（75人）	56（75％）	21（28％）	9（12％）	9（12％）
短期留学生（44人）	22（50％）	20（45％）	12（27％）	2（ 5％）
未記入（12人）	6（50％）	2（17％）	4（33％）	2（17％）

表５aから非常に興味深い現象が見えてくる。いずれの身分の留学生もやはりアカデミック関係の勉強を最も重要視している。その中でも、最も高い比率を持っているのは研究生の学習者であり、三分の二はアカデミックな勉強のために読む練習が必要であると感じている。これは研究生である学習者はこれからの受験勉強や専門の学習のために日本語の勉強に励んでいるとからだと考えられる。テレビや雑誌などの媒体による情報の取得と漫画などの趣味読書においては、短期留学生に最も比率が高く、正規生の二倍以上に上っている。研究生の比率はその間に位置する。すなわち、正規生となると、専門学習や研究以外

のことより、アカデミックに関わるものに集中している。これに対し、短期留学生の学習者は専門学習のみでなく、より広い範囲で読む練習の重要性を意識している。さらに、説明書や案内書など日常生活の題材においては、研究生の比率が最も高く、短期留学生の比率が最も低かった。この点については、ほとんどの研究生は日本に来て、それほど時間が経っておらず、日本語もまだ不十分なため、生活上で困ることも予想される。正規生になると、日本語も進歩し、日本語による日常生活上の問題も減ってくる。そして、短期留学生の学習者のほとんどが日本に来る前すでに日本語を学習した経験を有するため、日常生活上ではあまり不自由がなく、さらにテレビや雑誌を見たり、漫画などの趣味読書をすることもできるため、日常生活上では読む練習の必要性をあまり感じていないが、ほかの項目では高い必要性を感じている。

表５b　身分別に見た質問１の「能力のアップ」カテゴリーにおける回答

能力のアップ									
読むスキル						他技術			
身分	大意把握	文章理解	文法の理解・応用能力	語彙の量・理解	未知語彙の推測	作文能力	日本語の記憶力	ヒアリング能力	話す能力
正規生（49人）	6 (12%)	5 (10%)	0	3 (6%)	0	1 (2%)	1 (2%)	0	0
研究生（75人）	5 (7%)	5 (7%)	6 (8%)	7 (9%)	0	2 (3%)	0	2 (3%)	4 (5%)
短期留学生（44人）	8 (18%)	7 (16%)	1 (2%)	2 (5%)	1 (2%)	0	0	0	0
未記入（12人）	1 (8%)	1 (8%)	0	1 (8%)	0	0	0	0	0

正規生と短期留学生においては、大意把握と文章理解の二つの項目が高い比率を示しており、語彙と文法の項目が低い比率を示すが、研究生は語彙の量・理解と文法の理解・応用が能力アップというカテゴリーの中で高い比率を占めている。これも研究生の語彙と文法が不十分であることを示している。また、他技術というカテゴリーを見ると、「ヒアリング能力をアップさせたい」、「話す能力をアップさせたい」と回答した人もすべて研究生である。また、「読解」を「音読」と勘違いして理解した学習者はすべて研究生の身分である。

表５c　身分別に見た質問１の「その他」カテゴリーにおける回答

その他		
身分	知識の獲得	日本語らしい表現や日本文化
正規生（49人）	1（2%）	0
研究生（75人）	2（3%）	3（4　%）
短期留学生（44人）	0	2（4.5%）
未記入（12人）	0	0

「その他」というカテゴリーでも研究生の回答の絶対数が最も多かった。「知識の獲得」の項目では短期留学生の回答がなかったが、「日本語らしい表現や日本文化」の項目では、短期留学生の回答が比率が高かった。

3.2.2　学習困難点を問う質問２

表６a　身分別に見た質問２の「言語自体に関わる問題」カテゴリーにおける回答

言語自体に関わる問題									
身分	文法・未習文法	未知語彙	漢字の読み方・書き方	外来語・カタカナ	話し言葉・書き言葉	古語・専門用語・専門文献	慣用表現・コロケーション	多義語・類語	キャラクター
正規生（49人）	4（8%）	8（16%）	15（31%）	3（6%）	0	4（8　%）	3（6　%）	0	0
研究生（75人）	12（16%）	10（13%）	22（29%）	6（8%）	4（5.3%）	4（5.3%）	4（5.3%）	2（3%）	0
短期留学生（44人）	3（7%）	14（32%）	12（27%）	1（2%）	0	2（4.5%）	3（6.8%）	1（2%）	1（2%）
未記入（12人）	2（17%）	7（58%）	3（25%）	0	0	0	0	0	0

学習困難点について、文法という項目では研究生の回答が最も多かった。その次に正規生であり、短期留学生は文法を難しいと思う人が最も少なかった。これは予測と一致した。専門用語・専門文献の項目では正規生の回答の比率が最も高く、研究生がその次であり、短期留学生が最も低かった。これは、正規生になってから専門用語や専門文献に触れることが多くなるためと考えられる。

ところが、予想を覆すのは未知語彙の項目では、何故か短期留学生の比率が最も高かった。この点については疑問が残る。

表６b　身分別に見た質問２の「読解テクニックの欠如」カテゴリーにおける回答

読解テクニックの欠如					
身分	長文の理解・区切り	複雑・曖昧な文章の理解・ニュアンスの把握	文章の主旨・構成・作者の意図を理解、まとめ	読むスピードが遅い	精読か速読か迷う
正規生（49人）	0	2（4　%）	2（ 4%）	3（6%）	1（2%）
研究生（75人）	7（9%）	6（8　%）	7（ 9%）	5（7%）	0
短期留学生（44人）	3（7%）	2（4.5%）	6（14%）	0	0
未記入（12人）	1（8%）	0	1（ 8%）	1（8%）	0

文が長いと難しいと感じる学習者は研究生が最も多かった。その次に短期留学生であり、正規生は一人もいなかった。複雑・曖昧な文章の理解やニュアンスの把握が難しいと感じる学習者も研究生に最も多く、その次に短期留学生であり、そして正規生の順である。「時間がかかる」という項目においても、研究生である学習者の回答が最も多かった。これもまた研究生の日本語能力の不十分さを表していよう。

表６c　身分別に見た質問２の「読解内容に関わるもの」カテゴリーにおける回答

読解内容に関わるもの			
身分	文化背景・知識	政治と経済の文章	縦書きに慣れない
正規生（49人）	1（2%）	0	0
研究生（75人）	2（3%）	0	0
短期留学生（44人）	1（2%）	1（2%）	1（2%）
未記入（12人）	0	0	0

読解内容に関わる学習難点においては、正規生は文化背景や知識が難しいと答えた人が１名おり、その以外の項目ではゼロである。研究生では文化背景、知識が難しいと答えた人は２名いた。その以外の項目はゼロである。短期留学生は三つの項目にも回答者がいた。

表６d　身分別に見た質問２の「その他」カテゴリーにおける回答

その他			
身分	ストラテジーを勉強したい	日本語を勉強する時間がない	母語発音の干渉
正規生（49人）	0	1（2%）	0
研究生（75人）	1（1%）	0	1（1%）
短期留学生（44人）	0	0	1（2%）
未記入（12人）	0	0	0

いずれのカテゴリーにも収まることの出来ない項目を「その他」とした。回答の絶対数の最も多いのはやはり研究生である。

3.2.3　本節のまとめ

本節では身分別にニーズ調査の結果を検討した。その結果、以下の点が見えてきた。

①学習動機を問う質問１において、

a.いずれの身分の留学生もアカデミック関係の勉強を最も重要視しているが、最も高い比率を示しているのは研究生の学習者である（三分の二）。

b.正規生はアカデミック関係の題材に集中しており、趣味などほかの題材の比率はいずれも研究生と短期留学生より低い。

c.短期留学生は学校の勉強のみでなく、趣味・読書やテレビ、雑誌などより広い範囲で読む練習の重要性を意識している。

d.説明書や案内書など日常生活の題材においては、研究生の重要性の比率が最も高く、短期留学生の比率が最も低かった。日本語能力の差が示唆される。

e.正規生と短期留学生においては、大意把握と文章理解の二つの項目の重要性が高い比率を占めており、語彙と文法の項目が低い比率を示すが、研究生は語彙と文法が高い比率を占める。

f.「読解」を「音読」と勘違いして理解した学習者はすべて研究生身分である。

②学習困難点を問う質問２において

a.言語自体に関わる問題というカテゴリーでは、研究生の回答が最も多かった。

b.文法という項目では研究生の回答が最も多かった。短期留学生は文法を難しいと思う回答が最も少なかった。

c.専門用語・専門文献の項目では正規生の回答の比率が最も高く、研究生がその次であり、短期留学生が最も低かった。正規生は専門用語や専門文献に触れることが多いためだと考えられる。

d.文が長いと難しいと感じ、また文章を読むのに時間がかかると答えた学習者は研究生が最も多かった。

e.複雑・曖昧な文章の理解やニュアンスの把握が難しいと感じる学習者も研究生が最も多かった。

f.予想に反した点は未知語彙の項目で何故か短期留学生の比率が最も高かったことである。

４．おわりに

本稿はJ500からJ900の「読む」のニーズを中級前半、中級後半、上級と分けたレベル別、

正規生、研究生、短期留学生と分けた身分別から見た。これ以外に日本滞在歴別や国籍別、所属別による分析も興味深いが、今後の課題とする。

参考文献

北條淳子（1973）「上級クラスにおける読解指導の問題」『日本語教育』21号

山本一枝（1985）「大学一般教養専門書の読みの難易と文体的特徴－日本語中級読解指導との関連において－」『筑波大学留学生教育センター日本語論集』１号：53-69

西口光一（1990）「上級日本語教育のプログラム－アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの場合」『日本語教育』71号

立松喜久子（1990）「上級学習者に対する読解指導」『日本語教育』72号

小川貴士（1991）「読みのストラテジー、プロセスと上級の読解指導」『日本語教育』75号

山田なみ子（1995）「読解過程に見られる既有知識の影響と文法能力の関係について」『日本語教育』86号

小野正樹（2005）「上級学習者への認知文法の可能性と課題」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』20号：57-66

卯城祐司（2009）『英語リーディングの科学』研究社出版

謝辞

本稿を作成するに先立って、「読む」クラスをご担当になっている沖田弓子先生、高橋純子先生、近藤幸子先生、和氣圭子先生から、貴重なご意見をいただきました。改めて御礼申し上げます。

注

１．表の中のパーセンテージは各カテゴリーに属する回答をした人数を各レベル、各ステータスの人数で割った数値である。また、a, b, c, dはもともと一つの表であるが、幅がありすぎ、表示できないため、敢えてa, b, c, dに分けて表示した。そのため、aの数値だけを足しても100％にならない場合もある。また、一人の回答の中に複数のカテゴリーが含まれている場合も多いため、数値を足すと、100％を超える場合もある。

資料１

(1) 説明書とか、新聞とか、ビジネース文章なとの読む練習が必要と思う。

(2) 因为在学习专业过程中要大量读日本著作、所以要练习。
（専門の勉強をするときは大量の日本語の論文を読むから、練習が必要）

(3) 日本語能力試験に合格するために、前の試験に出た読解を練習する必要があります。

(4) 専門課の本を読む時、内容が分からなければ、困ります。日本の新聞を読む時、読む練習をする必要があります。

(5) 놀러갈 때 메뉴볼 때 수업들
（遊びに行くとき、メニューを見るとき、授業のとき）

(6) 今は日本語のマンガを読み終ったんです。将来に日本語の小説を読みたいです。

(7) 高いレベルの日本語を迅速に且つ効率的に読めるようになること

(8) 正確に日本語文章の意味を理解する。

(9) 文法の応用レベルを上げるため、語彙の量を増やすため。

(10) 言葉の意味が分からなくても推測できるようになる。

(11) 日本語のさまざまな書き方を学びたい。「読む」を通じて書く力も上げたい。書き方をマスターするには、「読む」と「書く」が必要です。

(12) 読むときに日本語の記憶力を高める。

(13) 話すのがあんまりうまくないのは朗読能力が弱いからだと思う。朗読を通じてヒヤリングと会話能力を高めたい。

(14) 読む能力が高まったら、話す能力も高まる。

(15) 読むことは人の考え方を知り、知識を得る重要な手段です。

(16) 日本語らしい表現や日本文化が含められているのです。

(17) 文章にわからない文型が出た時に、意味が分からなくて困りました。

(18) 知らない単語、読み方、古代日本語表現とかちょっと意味がわからなくなってしまいます。

(19) 文献とかで専門の単語や、外来語、カタカナの所がちょっとむずかしいです。

(20) 有时书面用语和口语不一样。所以有时理解不了。
（書き言葉と話し言葉が違う場合があるから、時々理解できない。）

(21) 看书的时候遇到日语固定表达方式时。
（本を読むとき、日本語の慣用句などの決まった表現。）

(22) 有些单字、片语会跟原本学的意思不一样、造成理解理解错误。
（一部の単語やフレーズの意味が最初に習ったときの意味とは違うので、理解上の間違いが生じてしまう。）

(23) Character and vocabulary are the most difficult part.

（キャラクターと語彙が最も難しい部分です。）

(24) 最困难的是长句子时、不知从何处断句。

（一番難しいのは長文のとき、どこから切るのか分らない。）

(25) 言葉などは辞書で調べると意味がけっこう分りますが、言葉や文章のニュアンスが曖昧でよく正確に分かりにくいです。

(26) 長い文章のまとまりと著者の一番言いたいところの理解です。

(27) スピードリーディングが難しい。専門書を読むには時間がかかる。

(28) 生词多的情况下、精读和快速阅读的选择。

（知らない単語が多い場合、精読するか速読するかに迷ってしまう。）

(29) 古文とか、日本の文化に関する特定なことばと文章にはにがてです。

(30) 新聞記事や政治と経済についての文章です。

(31) 세로쓰기로 된게 아직 적응이 안 된다。

（縦書きになっているのが未だになれない）

(32) 在课堂上的阅读量有限、希望能够掌握阅读方法。

（授業で読む文献の量が限られているため、読解ストラテジーをマスターしたい。）

(33) I do not have enough time to dedicate for Japanese language studies anymore as I did when I was kenkyusei.

（研究生の時のようにたくさんの時間を日本語の勉強に使うことがもうできない。）

(34) 한국의 발음에 익숙해 일본어 발음을 하기 힘듬

（韓国語の発音に慣れていて、日本語の発音がしづらい）